

令和5年度第2回四万十町総合振興計画審議会 会議録

開催日時：令和5年12月21日（木）13：00～15：00
場所：本庁東庁舎 1階 大ホール
出席者：横山 順一、掛水 誠幸、百田 幸生、神田 修、竹吉 功、
黒岩 範久、船村 覺、島岡 華奈子、岡村 健志、野村 宏、
山本 由美
欠席者：田中 勇一、佐々木 将司、田邊 誠進、三浦 ひろみ、浅野 尊子

■会議次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 総合戦略の見直しについて
4. その他
5. 閉会

■会議資料

1. 会議次第
2. 委員名簿
3. 四万十町デジタル田園都市構想総合戦略（素案）
4. 第2期四万十町まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証
5. 総合戦略の見直しに関するご意見・ご提言シート

（事務局）

定刻になりましたので総合振興計画審議会を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。始めに会長よりご挨拶をお願いします。

（岡村会長）

それでは今日はよろしくお願い致します。本日は、総合戦略の見直しということでこの後に各課の皆様からご説明もあると思いますが、名前も変わってしまっていて「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から「デジタル田園都市構想総合戦略」ということになっています。今まで4つの基本目標があったと思いますが、それにプラスしてデジタルというのが増えて、全部で5個のトピックをこれからご説明いただき、ご議論をいた

だくということになります。1つあたり、だいたい15分ぐらいで終わらせるということですので、少し足早になりますが、ぜひご協力お願いできればと思いますので、ご説明いただく皆様方も要点について簡潔にご説明いただければと思います。では、早速はじめたいと思います。よろしくお願いいたします。

(事務局)

各課の皆様にご説明いただく前に計画策定の趣旨や位置付け、計画の構成等についてご説明させていただきます。〈説明省略〉

(岡村会長)

全体の内容についてご説明いただきました。ご質問よろしいでしょうか。今年度あと何回か審議会の開催予定がありますが、この件についてはあと何回議論するのかであるとか、今回の会議の位置づけについて少しご説明をお願いします。

(事務局)

当初は、今回の会議ともう1回会議を開催できたらと考えてはいましたが、なかなか皆さんお忙しいですので、できれば今回の会議でご意見をいただいたものをもって、計画の修正を行っていきたいと思っております。どうしてももう1回開いた方が良いということになれば日程について考えたいと思います。よろしくお願いいたします。

(岡村会長)

ありがとうございます。会議の中で取りまとめということではなく、意見を出してくださいということでもよろしいですね。

(事務局)

そのとおりです。

(横山委員)

確認ですけど、令和4年12月に現岸田内閣が打ち出した経済成長戦略によって、今回四万十町の総合戦略も変更するという事なんですけど、今後においても国のトップが変わったり、方針が変わったりとか、そういったことも想定はされますが、これまでのように年度途中でも見直しをしていく必要が生じれば見直しをしていくということでしょうか。

(事務局)

そのとおりです。

(岡村会長)

それでは、早速会議をすすめていきたいと思います。基本目標1について担当課のご説明をお願いします。

(農林水産課：佐竹課長)

資料10～12P：基本目標1「地域の特性を生かした雇用を創出する」について説明。〈説明省略〉

(にぎわい創出課：小笹課長)

資料11～12P：基本目標1「地域の特性を生かした雇用を創出する」について説明。〈説明省略〉

(岡村会長)

ご意見ご質問などありましたらお願いします。

(竹吉委員)

スマート農業の関係ですけれども、最近では農業面でも労働力の不足というのは顕著な課題となっております、このスマート農業の関係で導入したドローンですが、これは営農支援センター株式会社の方で確か2台程導入されていると思います。その効果について、担当の方にも聞いてみますと、防除は今のところヘリでやっておりますが、水田の除草剤を散布する時に使っており、非常に省力化に効果が出ているということもお聞きしています。ぜひこういった構想を打ち出す中で非常に大きなポイントかなと思いましたので発言をさせていただきました。ぜひそういった面でも伸ばしていただきたいと考えております。

(農林水産課：高橋副課長)

ドローンについてはうちの方も高い評価を受けておりまして、窪川地域になりますけれど、現在も水稲圃場については支援センターのヘリ防除が多いわけですが、やはり適期防除といいまして、やりたい時に防除ができないといった課題もございます。そういったところを克服するためにもドローン防除が有効的になっておりますので、また引き続き取り組んでいきたいと思っています。

(船村副会長)

農業の関係になりますが、どこの地域でも課題になっていると思いますが、最近田んぼの荒地が多いと思います。ものすごく草も伸び放題で、特に人家の近くの田んぼでは、十字路等で車の運転も見通しが悪く危険であるとか、風が吹いたら家に何か飛んでく

るというようなことも聞いており、この荒地について対策を考えないといけないと思いますが、何かそうしたことについての取組などはありますか。

（農林水産課：高橋副課長）

先ほど課長が申しました 10 ページの一番下にあります人・農地プランの関係で地域計画というものを今作っております。地域計画というのはその地域の農地を今からどうやって守っていきましょうかということで、座談会を各地域で開き、その中で地域の方と一緒に協力をしながら進めていくような形となります。そうした会の中でご意見などをお聞きしながら、計画を立てていくことになっていきますのでよろしくお願い致します。

（船村副会長）

あくまで個人の財産ではありますが、農地の管理ができない高齢者になって、自分の手ではなんともならないというような状況に追い込まれておりますので、今後も農協の方とも相談をして、そのような土地がなくなるように、そうした環境をつくっていきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

（掛水委員）

先程の船村さんの意見に関連してですが、中間管理機構という組織が農協の中にありまして、現在農地の貸し借りのお手伝いをさせてもらっていますが、そこへ相談していただけたらと思います。場合によっては、また草刈りをしたら耕作ができる状態であれば、ひょっとしたら借り受けてくれる方が出てくる可能性はございます。

（岡村会長）

その他いかがでしょうか。それでは、私の方からコメントだけで回答はいたらないですが少しいいでしょうか。10 ページ目ですが、以前は新規就農者が 5 年で 100 人が目標だったのが今回は 4 年で 120 人ってことは 1 年間で 20 人から 30 人と 1.5 倍となっていますが、どのように増やす予定でしょうか。例えば、取り組みを何か強化するのか、あるいは環境が良くなるのかみたいなことがありますか。そのあたりがどういう考えなのかなということと、それから何点かありますが、11 ページの高校生の町内就職の促進なんですけど、町外への就職を抑制し、町内の労働力不足解消っていう表現がありますが、なんといいいますか私も教育者の端くれとしまして、若干表現に抵抗感があります。もう少しポジティブな表現にならないかなということです。後の目標の方でも、未来塾の話も出てきて、子ども達の人材育成をずっとしている中で、そのあたりを少しご考慮いただけないかなという気がしております。

それから、具体的な施策の推進で、地産外商のところ、B to B が中心という話あ

りましたが、私を取り組ませていただいている中でも、小規模ではあるのですが新たな
外人材の掘り起こしていうのもそろそろいかなという気もしています。そうな
ってくると、それとともに B to B だけじゃなくて、やっぱり B to C をちゃんとやっ
ていかないと B to B の話も全然できないという現状があるので。そういったテストマ
ーケティングじゃないんですけども、人材育成という観点からも外人材の掘り起こ
しと育成という点から、もう B to B だけにこだわらず、少し教育観点から B to C と
いうところにも視野を広げてみてはいかがかなと思いました。

(農林水産課：高橋副課長)

1 点目の新規就農者の目標値が年間で 10 人増えて、年間 30 人になっているといっ
たところですけども、こちらの方は農業経営基盤強化促進法に基づく四万十町の基本
構想というものがあまして、その基本構想をこの令和 2 年以降に改正をする時に年間
20 人の目標で行きますということで県に出したところ、県が掲げる目標がありまして、
四万十町の割合で言うと、30 人で頑張ってもらいたいといったお話もあり、目標数値
を 30 人に引き上げて改正をしたということで、今回それに合わせた数値となっております。
新規就農者については引き続き手厚い支援もしていきますので、そうした経緯で
の目標設定となっております。

(にぎわい創出課：小笹課長)

高校生の町内就職の促進ですけど、確かにこの書き方ですとイメージが悪いところも
ありますが、元々は前計画である「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で人口減少
という観点から計画を作っていることもあり、こういう表現が残っていたのだと思いま
す。ただ、私どもとしましては、それと共に町内にもこんな魅力的な企業があるんだよ
というところを高校生の方にも知ってもらって、U ターンの際に役立ていただこうと
か、そういうことを考えていますので、ちょっと表現の仕方を考えたいと思います。そ
れと、地産外商のところ、B to B と B to C のお話がありましたけれど、確かに B
to C というところも観点として 1 つあるんです。商談会とか個別の販売、フェア等
そういったところで B to C というところも関わってはくるのですが、あまりにも B to
C に偏るとイベント販売とか、そちらの方がメインになってきてしましまして、そちら
にかなり労力を取られてしまうということもあり、単にイベント要員として役場の係が
動くという観点はあまり考えていないところもあります。そのため、B to B をメイン
に必要であれば、人材育成の観点から B to C というところも取り組んでいければと
いうふうに考えています。

(岡村会長)

B to C を排除しているわけじゃないってことです。ご説明ありがとうございます。

ます。では続いて次の基本目標2の方に行きたいと思います。基本目標2「四万十町への新しい人の流れをつくる」というところであります。よろしくお願ひします。

(にぎわい創出課：小笹課長)

資料13～14P：基本目標2「四万十町への新しい人の流れをつくる」2-1 移住・定住の促進、2-2 交流・関係人口の拡大について説明。〈説明省略〉

(企画課：坂本情報推進対策監兼広報情報係長)

資料14P：基本目標2「四万十町への新しい人の流れをつくる」2-2 交流・関係人口の拡大について説明。〈説明省略〉

(企画課：津野四万十川振興室長)

資料15P：基本目標2「四万十町への新しい人の流れをつくる」2-3 四万十川の保全・活用について説明。〈説明省略〉

(野村委員)

13Pの2-1 移住・定住の促進なんです、四万十町の自然環境は、県外というか都会の人たちからしたらすごく魅力的に感じて、今も一定数の移住希望者はおられると思いますが、私の親戚でこんな話があって、家を移住者用に10年という約束で提供して、結果的には2、3年でその移住者の方はもう離れてしまったとかということがあったみたいです。実際、町の方では移住者数はちゃんとカウントされていると思いますが、例えばそのうちの移住した方がどれだけ定着されているとか、出て行かれる方は例えばどういう理由で四万十町から離れているとか、そういう調査もされているのでしょうか。

(にぎわい創出課：小笹課長)

定着率でございますが、それぞれ移住されてきた時に、町の支援制度(中間管理住宅、移住促進住宅、移住支援住宅等)を使っていた方については、その方が定着されたかどうか後追い調査をしますが、転出された方の理由については、把握が難しいところがあります。現在でも移住に対するアンケートを、町民課で転入届を出してきてもらった時に渡してもらっておりますが、逆に転出する時にアンケートを取っていくという作業をお願いしないとできないところもあります。現実問題として、なかなか3月の繁忙期に転出転入が集中するということもあり、なかなかそこまで手が回ってないという現状です。ただ、言われるように転出の理由というのは探っていかなければならないとは思っていますので、参考にさせていただきたいと思います。

(岡村会長)

他の自治体で転出届の用紙の下の方にアンケートのチェックリストがあるやつを見たことありました。他にございませんか。

(掛水委員)

15P の四万十川の保全・活用ですが、私自身の故郷が仁淀村ですので、現在も生まれ故郷の方へ年に何回か帰省するのですが、清流四万十川と言われたのが自分の感覚で言うと今から 50 年余り前から 40 年ぐらい前までかなと。最近見る限り四万十川自体は非常に沢山のよせが生えており、昔自分たちが子供の頃には下流の橋から上流の橋まで 1 日お弁当持って釣りができるぐらいの川幅があったのが、どこへも移動ができない状態ですので、できればよせの対策とか、他でこうした事を言う機会がありませんので敢えて今日は発言させていただいているのですが、そういう保全をしていただきたいかなと思います。仁淀川は、今仁淀ブルーと言われていますが、仁淀川の方へ行くと意外と田んぼもないのですが、川自体によせ等の植物が生えていないということは、四万十町は農業の町ですので、どうしても田んぼをつくる時に土の流出があって、それがよせの発生原因なのではないかとは思っていますが、ぜひ頑張っていたいただきたいと思います。

(企画課：津野四万十川振興室長)

ご意見ありがとうございます。確かによせの問題については、掛水委員が言われたとおり、いろいろと漁協ないし、関係者とも議論をしているところです。ただ、原因は様々ありまして中でもやはりその農業の問題というのは確かに挙げられています。ですが、四万十川の抱える課題はそれだけではなく、これまでも様々な課題があり、四万十川の水質が落ちてきているというのは、データ上でも明らかです。そのため、漁協や関係機関とも連携を深め、これからも保全に努めていきたいと思えます。

(岡村会長)

他にご意見ございませんでしょうか。

(山本委員)

15P の四万十川での体験活動による川ガキの育成というのがありますが、川での体験メニューをいろいろ書いてありますが、やっぱり川を見た時に子ども達が、自分達の四万十川が綺麗であると感じる事が大切で、そのことにより都会の人達にとっても魅力に感じてもらえるものだと思いますので、川の美化活動として河川の一斉清掃もやっていますけど、特に小中学生にこの川ガキの育成で美化の方を教育して欲しいと思えます。

(企画課：津野四万十川振興室長)

川の美化活動についてですが今おっしゃられたとおり、毎年住民の方々に呼び掛けて一斉清掃を実施しておりますが、それも年1回の対応ではありますので、普段の事業としては例えばこの中の四万十川保全事業の中で委託事業としてシルバー人材センターさん等と協力しながら、先ほどお話に出ておりましたよせの対策やゴミ拾い等は対応させてもらっております。ただ、やはりそれは大人達が取り組んでいくことでありまして、委員がおっしゃられましたように、実際に子ども達が綺麗な四万十川を残していくという体験活動や広報については、まだまだこれからも学校と連携してやっていくことは大切だと思います。

(横山委員)

14P の具体的な施策のシティプロモーションの推進というところですか。これはすごく自分も大事なことで地域の良いイメージをさらに広めてもらいたいというふうに思います。また、四万十町だけのことじゃないのですが、動画の作成について、ドローンを使って上空から空撮というのが今多く用いられていて、それも人が行けないようなところの撮影や調査・記録を残していくとか、そうした撮影にはすごくドローンでの撮影も大事ですが、観光的な部分で言うと、やっぱり人目線の動画と言いますか、四万十町に来た人が実際に見える景色とか風景とかですね、主に自然の事になりますが、そういった人が実際に行ってこう見える、または見えている動画っていうか。今はいろんなレンズのフィルターとかもあり、すごくきれいな動画がありますが、いつも綺麗な風景が見れるわけではないので、動画による撮影はすごく大事なんですけど、人目線の動画についても心掛けていただき、バランスのいい動画作成をお願いしたいです。

(企画課：坂本情報推進対策監兼広報情報係長)

ありがとうございます。委員おっしゃられるとおりドローンだけではなくて、人目線の普通のカメラやスマホで撮るぐらいの感じの部分もありなのかなと思っています。それで、you tube の動画撮影になります。来年度の事業としては、四万十ケーブルテレビで放送して行政放送について、現在はテレビでしか見えませんので、まずそれを you tube ですぐ流すようにしようということと、今までどおりドローンとか綺麗なカメラで撮影する部分っていうのも継続しつつ、先ほどご意見いただきましたように人目線と地域の方に入り込んでもらいまして、地域目線で作成する動画を 130 本ほど撮影することを計画しており、まさに横山委員が言われたとおりの部分を作りたいかなと思っていますので、また楽しみにしていただけたらと思います。

(岡村会長)

ありがとうございます。時間が来ましたので次の議題の方に移って参りたいと思いま

す。次は、基本目標3「若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる」でございます。ご説明をよろしくお願いいたします。

(企画課：水田係長)

資料16P：基本目標3「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」3-1 結婚支援策の推進について説明。〈説明省略〉

(健康福祉課：国澤課長)

資料17～18P：基本目標3「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」3-2 出産・子育て環境の充実について説明。〈説明省略〉

(生涯学習課：佐竹副課長)

資料17～18P：基本目標3「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」3-2 出産・子育て環境の充実について説明。〈説明省略〉

(学校教育課：東副課長)

資料17～18P：基本目標3「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」3-2 出産・子育て環境の充実について説明。〈説明省略〉

(岡村会長)

基本目標3についてですが、ご意見ご質問などいかがでしょうか。

(島岡委員)

17P からの出産・子育て環境の充実の部分で、子育て世代の一員として発言をさせて頂ければと思います。特に経済的支援の充実という面では、非常に多くの支援がありまして、その恩恵を受けているのですが、1点医療の面に関してのお願いになります。やはり医療を受けたい場合に、町内には小児科専門の病院が少ないことや、近年個人の病院が閉院されたところもありまして、なかなか医療を受けるのが難しい現状がございます。民間の医療機関の関係になりますので、行政の方でというのは難しいかもしれませんが、ぜひ小児科の充実ということを盛り込んでいただければと思います。

(黒岩委員)

それに関連しまして、今非常にインフルエンザが流行期に入っています。本校でも先週1学級で14人インフルエンザにかかった、もしくは発熱した生徒が出たんですけども、中学生の普通の病院の内科へ行っても、小児科に回ってくれということで、小児科のあるところに参りますと、今日はもう発熱外来は満杯で診察することができないとい

う状況もあり非常に困りました。診断を受ける受けないという事ではなくて、やはりインフルエンザは非常に危険な感染症でもありますので、学校としましても医療機関の方が充実してくれればありがたいなというところは感じております。

(健康福祉課：小松副課長)

小児科及び産婦人科につきましては、高幡保健所管内でも、産婦人科におきましては1件もありません。小児科はあるにはあるのですが、毎日やっているわけではなく、皆さんにご心配をおかけしていると思います。四万十町といたしましても、いろいろ県や関係機関を通じましてお願いといたしますか、できたら四万十町の近くに病院ができないだろうかというお話は継続して行っているところではありますが、なかなかやはり民間の病院のことですので、難しいところもございます。そこで四万十町といたしましては、来年度からにはなりますけれども、産婦人科医・小児科医・助産師に対しましてオンラインで相談できる事業を考えております。専門の先生方にいつでも相談、また夜間のLINEを通じましての画面越しの相談ができるような事業になっておりまして、また来年度以降にお知らせをしまして、誰でもお子さんがいらっしゃる家庭と、あと妊婦さんで産婦人科医に相談されたい方が登録をさせていただいて、誰でも相談ができるような体制を整えることを考えておりますので、ご利用いただきたいと思います。よろしく願いします。

(岡村会長)

ありがとうございます。そういうのはここには盛り込まないですかね。デジタル田園都市構想なのでデジタルなのかわからないんですけどもちょうどいいんじゃないかなという気がしますけど。ぜひご検討いただければと思います。その他いかがでしょうか。

(黒岩委員)

婚活の件についてなんです、私も20年ほど前に窪川中学校で仕事をさせていただいて、また帰ってきているところなんです、その20年前に教えた子ども達ももう結婚適齢期になっています。それで何人かは結婚もして、子育ても頑張っている人達もいるんですが、結構まだ一人で婚活をしたいなという気持ちになってきているということをうちの近辺で聞いたり、教え子にもう結婚せんかえと聞いたら、今探しているところよというような話があったりして、それでどうしてるか聞いたら高知の三翠園にそういう集まりがあって行っていたとか、ネットで情報を集めたりしているみたいです。もう少し身近で、先ほどご説明のありましたサポートもあるというようなことがありましたので、そういうところを広く周知していただければ、もっとこの地元でも話が盛り上がってくるのではないかなというふうには感じました。

(企画課：水田係長)

広報につきましてはケーブルテレビや町の広報紙の方でも「出会い応援センター てとと」がオープンしましたということで、掲載はしているのですが、また引き続きLINE 等でも情報発信もしていますので、皆さんに知ってもらえるように取り組んでいきたいと思います。

(岡村会長)

ありがとうございます。よろしいですかね。だいぶ駆け足とはなりますが、続いて基本目標4に移りたいと思います。「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る」でお願いします。よろしくをお願いします。

(人材育成推進センター：中井次長)

資料 19～20P：基本目標4「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る」4-1 将来を担う人材の育成について説明。〈説明省略〉

(生涯学習課：味元課長)

資料 19～20P：基本目標4「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る」4-1 将来を担う人材の育成について説明。〈説明省略〉

(企画課：中川副課長)

資料 21～23P：基本目標4「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る」4-2 安心してらせるまちづくりについて説明。〈説明省略〉

(建設課：下元課長)

資料 21～23P：基本目標4「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る」4-2 安心してらせるまちづくりについて説明。〈説明省略〉

(危機管理課：西岡課長)

資料 21～23P：基本目標4「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る」4-2 安心してらせるまちづくりについて説明。〈説明省略〉

(岡村会長)

ありがとうございます。基本目標4につきまして、ご意見ご質問などいかがでしょうか。

(掛水委員)

この間緑林公園で行われました防災訓練は非常に有意義なものであったと思っております。非常に高く評価しております。また、以前ケーブルテレビの方で職員による重機の操作訓練の様子が放送されていましたが、私の意見としては、多分本当に災害が起こった時は、職員ではなく地域ごとで重機の操作ができる人が必要となってくるのではと思います。それで、住民の方に一から全ての訓練をするのは職業の手助けをする形になるので無理だと思いますので、地域でそうした免許を持っている方について、普段使っているコンボ以外の例えば掘む重機とかの操作訓練をやってはどうかと提案させていただきます。この事については特に回答は結構です。

(岡村会長)

ご意見ありがとうございます。続いてデジタルの方に移りたいと思いますがよろしいですか。基本目標は全て終わりましたので、続いて新たに加わった項目である「デジタル実装の基礎条件整備」のご説明をお願いします。

(企画課：坂本情報推進対策監兼広報情報係長)

資料 24～25P：「デジタル実装の基礎条件整備」①デジタル基盤の整備について説明。〈説明省略〉

(掛水委員)

24P のコンビニ交付の住民票等の利用ですが、実は一昨日、ラジオで私が聞いていたところ他の町村ですが、住民票等の交付についてはアンドロイドの使用しかできないですよってという話がありました。多分四万十町ではアンドロイドと 아이폰の両方とも使用可能になるのかなと思っておりますが、その辺もぜひ両方とも使える形にしたいと思っております。

(企画課：坂本情報推進対策監兼広報情報係長)

多分、マイナンバーカードの認証をスマホで行うということになろうかと思っておりますけれど、そのあたりについて今確実な情報かどうか断言できないので後日確認したいと思います。私の認識ではアンドロイドの OS と IOS の OS の両方とも操作可能なシステムになっていると認識しております。また、しっかり調べて、事務局の方から回答させます。また、マイナンバーカードを持っておられれば、コンビニの複合機のような機械にマイナンバーカードをかざしていただいて本人確認をし、暗証番号を入れていただかないといけません。そこで四万十町の印鑑証明等のボタンを押して、レジでお金を300円払っていただければ証明書がとれるということになります。

(岡村会長)

私の方からいいですか。数値目標として、4年後に5サービスと書かれており、それはコンビニ交付とか窓口サービスのことだと思うのですが、これは四万十町さん独自に例えば拡張領域を使ってサービスしていくとか、そういうお話ですか。

(企画課：坂本情報推進対策監兼広報情報係長)

拡張領域はできるだけ使いたくないと正直考えております。今は一般的な領域での認証を考えておりまして、具体的にまだ予算化までは至ってないのですが、このコンビニ交付の拡張機能として、コンビニ交付は当然コンビニエンスストアの複合機的なものでしか発行できないですけれど、それをタッチパネル式のパソコンを役場の庁舎において同じような環境を構えられると、役場の出先機関例えば興津出張所であったり、十和の隣保館であったり職員が駐在している拠点に拡張するサービスがありますので、まずそのあたりの拡張機能認証を使わなくてもできるサービスとして3つ目を考えております。残りの2つも、できるだけ一般的な認証を使いながら、やはり四万十町単独でやると、どうしても費用がかかりますので、それを高知県全体でやれば県民が同じシステムを使うことで費用も下がりますし、住所を移転してもどこでもできるというのが多分理想だと思いますので、県庁さんとそのあたりを情報交換しながら進めて参りたいと考えています。

(岡村会長)

他にございませんか。それでは続いてご説明をお願いします。

(企画課：坂本情報推進対策監兼広報情報係長)

資料26～27P：「デジタル実装の基礎条件整備」②デジタル人材の育成・確保、③デジタルデバインド対策について説明。〈説明省略〉

(岡村会長)

ありがとうございます。ここでKPIに設定してますスマートフォンの相談会の開催回数ですが参加者とかになったりしませんか。できるだけアウトプットよりもアウトカムの方がわかりやすいかなと思ひまして。

(企画課：坂本情報推進対策監兼広報情報係長)

現状では今年度すでに5回開催をさせていただいて、その都度何人参加していただいているかまとめてありますので、大体平均値も出ますし修正したいと思います。

(岡村会長)

ちなみに関連して、もう1つ教えていただいてもいいですか。相談会には、どんな人がどういう需要で来られますか。スマホを新しく買ったから教えてほしいとか、持っているんだけど使い方がいまひとつわからないとかでしょうか。

(企画課：坂本情報推進対策監兼広報情報係長)

私もほとんどの相談会に立ち会いをさせていただいておりますけれども、最も質問が多いのはLINEの操作です。1対1のやり取りは出来ているけど、複数になった時のやり方が分からないとか、写真の送り方が分からないというところなど、少し踏み込んだところの質問がすごく多いです。中には専門的なところも聞いていただけるシニアの方もおられて、自分がドキッとする時もありますけれども。

(岡村会長)

僕が見たケースでは、LINEはインターフェースが結構複雑で、トークルームに入ると操作はできるのですが、それ以外のところのメニューが多くてそこがついていけないっていうのをよく拝見します。

その他ございませんでしょうか。予定していた時間より少し早いので、お手元にあるシートにご意見がまだの方は書いていただければと思いますし、全体を通して何かご意見ご質問がありましたら、この機会にと思いたしますがいかがでしょうか。

(竹吉委員)

最初にも少し申し上げましたけれども、このデジタル田園都市構想に格上げといえますかそういったことになることによって、例えば昔と言ってもあれですが、ATMの普及が始まった頃に、なかなか高齢者はよう使わんでという意見も聞きましたけれど、すぐにそういった利用にも慣れてきて、金融機関の窓口で書類を書くよりもずっと手軽で便利だということになりました。ぜひこれを機に、家から出にくくなった高齢者もどんどん増えてきておりますので、できるだけこういったデジタルを活用することによって生活環境が改善されるように期待をしたいと思っておりますので、ぜひこの構想を打ち立てて力を入れていただきたいと思います。

(岡村会長)

あと、これは事務局に対してですが、今回の構想の中で全体的に気になった点は、まず国際化っていう視点が全般的にどこにもないような気がするんですけど、それはいいですかということです。ご存知のように円安の影響で、今各種商談会は非常に海外からの取引も多い状況です。私がお支援させていただいている農家さんの方も今何件か商談が入っています。それでどうしたらいいのという状況ではあるんですけども、観光客の

方々も非常にインバウンドで、特に台湾から飛行機で来られて、梶原町さんなどは団体バスで多くの観光客が来ていてすごいですよね。そんな状況ですし、人材不足の面についても、もう当たり前のようにコンビニには外国人の方がいらっちゃって、農業にもということですけど、そういうところを一つ全体的に検討されてはどうかと思います。もう1点は、これは町の特徴のような気がするんですけど、観光がこの計画でいう交流の分野に入っているというところですね。外商の強化のところというか産業の方に観光がない。これ、他の自治体さんだと基本目標2じゃなくて、基本目標1の産業ですよ。この辺が四万十町らしさといえはそうかもしれないですけど、産業っていうのも一つの捉え方なんじゃないかなと思いますがいかがでしょうか。

(事務局)

先ほど国際化に関する視点が抜けているということでご意見いただきました。事務局の方からは再度各課の方に、今回の計画案の見直しをお願いしようと考えていますので、その際に先ほどおっしゃっていただいたインバウンドの関係ですとか、人材不足への取り組みですとか、そういった視点をもって見直しをお願いしたいと思います。また、観光が交流に入っているというところで、産業としての視点での観光業といいますか、そういった記載の仕方についても合わせて担当課と検討してみたいと思います。

(岡村会長)

すいません、ご無理は言いませんので。ただ、国際展開に関しては多分今やっておかないといけない感じの雰囲気ではあると思います。いろんなところを見ると。

ちなみに我々は海外の事は関係ないとか思わなくていいと思います。日本人が知らない海外の人に有名な日本の街ベスト100というのが出てますけど、正直こんなこと言うと失礼ですけど、全然聞いたことないような自治体さんが、海外ではとても有名であるという事例はたくさんありますし、その100の中には梶原町、越知町、大月町が入っています。

その他いかがでしょうか。ではあとは記述に時間を割いていただいて、全体を通した見直しの議論はこれで終わりたいと思います。それでは、その他の件に入りたいと思います。事務局から何かありましたらお願いします。

(事務局)

長時間ありがとうございました。その他というところで、今後の進め方についてですが、本日の会議でいただきました総合戦略の見直しに関するご意見をまとめさせていただきます。各課の方にそのご意見を共有させていただき、再度計画の見直しの方をしていただくという予定です。それで、来年の2月にパブリックコメントをやりまして、3月にはこの計画を策定するという段取りで進めたいと思っておりますので、よろしく

お願いします。

(岡村会長)

ありがとうございます。では、予定していた議題は以上となります。これにて第2回四万十町総合振興計画審議会の方は終わりたいと思います。最後に船村副会長よりご挨拶いただきたいと思います。

(船村副会長)

皆さん長時間ご苦勞様でございました。コロナは下火になっておりますけれども、先ほど黒岩委員からも報告がありましたように、インフルエンザが流行しております。今年も残り少なくなりましたが、皆さん体に十分気をつけて過ごしていただきたいと思います。また、来年もこの会があるように聞いておりますので、その時にはまた元気にご出席をいただきますようお願いをいたしまして、本日の会は終了といたします。どうもありがとうございました。

— 終 了 —